

## インターバンクの声（2014年7月17日）

前日には軒並み下げていた欧州主要株価だが、昨日は渦中のポルトガルの銀行株が持ち直した上、鉱山株が好調だったこともあって全面的な上昇となった。これでユーロも反発するかと思いきや軟調地合いが継続。改めて為替相場の難しさを思い知らされる。

上院議会証言の質疑応答の際には、ほんの一部分ながらタカ派的な発言もあったイエレン議長だったが、昨日の下院証言では完璧に近くハト派に戻ってしまった。それでもメディアには「FRBが金利を引き上げる方向に傾いているとの憶測が市場に広がった」と解説するようなどころもあり、イエレン議長の言葉を正確に伝えるというよりも市場の思惑を優先させているように感じた。米経済指標の結果はまちまちだったが、企業決算の結果は引き続き良好で、株価は序盤から堅調な動きとなって、ニューヨーク・ダウは約2週間ぶりに史上最高値を更新した。

ただ、こうした環境下でも米国債利回りは上昇せず、むしろ中長期の利回りは軟調だ。金利だけが原因ではないだろうが、ドル円相場も101円台80銭を目前に頭打ちとなり、102円台にすらなかなか届かない。今日も我慢の一日となりそうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。